カトリック山手教会月報

やまて

編集・発行　カトリック山手教会 広報委員会　〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
☎（045）641－0735　http://catholicyamate.org/

第６１５号　２０２１年5月16日

聖週間の典礼

受難の主日（枝の主日）
３月28日（日）11時30分ミサ

ラファエル梅村昌弘司教主司式による受難の主日ミサが執り行われましたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、参加した信徒による枝を掲げての行列は行われませんでした。

梅村司教説教（要旨）

イエスの受難をめぐって最近つくづく思うことがあります。それは、受難物語をとおして登場人物のそれぞれの人間性が見事にあぶり出されているということです。イエスに付き従い、身近にいた弟子たちは、イエスを見限り、裏切ります。「奈落の底までついて行くぞ」と言わんばかりだったペトロなどは３回にもわたって「反逆行為」に及び、保身に走ります。イエスのエルサレム入城を大歓迎した群衆は、心変わりをいとも簡単にやってのけ、一転してイエスをなぶりものにし「十字架につけろ」とはやしたてます。ファリサイ派の人々、長老、祭司長、律法学者らの心の中にあったのは、ねたみや嫉妬です。自分たちの社会的地位を脅かすようなことは見逃しません。既得権を奪うようなことは決して許しません。容赦なく排除します。いつの時代、どこの社会にあっても見られる人間のあさましさです。回心が呼びかけられている四旬節にあって、彼らと自分自身を照らし合わせることが必要ではないでしょうか。四旬節中のミサの第二の叙唱では次のように言われています。「聖なる父よ、あなたは信じる民の回心を望み、この恵みの時をお定めになり、過ぎ行く、この世にあるわたしたちが心のおごりを捨て、永遠に変わることのないものを求めるよう導かれます。」

「美しや障子の穴の天の川」という小林一茶の句があります。小林一茶の目は、破れ障子を突き抜けて天に向かっています。極貧にあって何という心の豊かさでしょう。イエスを死に追いやった人々と自分自身を重ね合わせることは、自らの回心のために大切だと今しがた申しましたが、実はわたしたち自身が破れ障子なのではないかと思います。しかし、大方のわたしたちは、おのれの穴を見ようとしません。自分の罪、弱さ、みじめさを認めない。認めたくない。しかし、障子の穴から目をそらす限り天の川は見えてきません。その逆に穴だけを見ていては、その先が見えません。つまり、自らの罪、弱さ、みじめさをきちんと見つめることなしに、それらを突き抜けたところに果てしなく広がる神の豊かな世界を見ることはできないということです。そのことをしっかりとまずは自覚しなければなりません。

受難の主日の典礼をもってわたしたちに促されていることは、まさにそのことです。そしてそれは「受難と十字架上の死」と「復活」を決して切り離すことができないということでもあります。わたしたち自身がイエスとともに受難と死を経験しなければ「神殿を打ち倒し三日で立て直して見せる」とおっ

しゃったイエスご自身の復活のいのちにあずかることはできません。パウロの言葉を思い起こしましょう。「あなたがたは知らないのですか。イエス・キリストに結ばれるために洗礼を受けた、わたしたちが皆、また、その死にあずかるために洗礼を受けたことを。わたしたちは洗礼によってキリストとともに葬られ､その死にあずかる者となりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命にいきるためなのです。」(ローマの信徒への手紙６章３－４節)

聖週間特別聖歌隊

聖木曜日 主の晩餐の夕べのミサ

聖木曜日 聖体安置式後の祭壇

聖金曜日 主の受難の朗読

復活徹夜祭　４月３日（土）19時ミサ

梅村司教主司式による復活徹夜祭ミサが執り行われ、入信の秘跡により19人が洗礼を受け、その他１人が改宗のお恵みをいただきました。

鈴木真主任司祭説教

改めて、皆さんご復活おめでとうございます。昨年は、聖週間に入ると同時に緊急事態宣言が出されて、復活徹夜祭で入信の秘跡が行えませんでした。今年は、こうして無事に行えることを本当にうれしく思います。

ここ山手にいると、毎年たくさんの受洗者を迎えられて、本当に大きな恵みを感じます。特に、昨年からのコロナ禍で、多くの小教区で入門講座ができず、入信の秘跡が行えない教会も多い、と聞きました。そのような中で、山手では、こうして多くの受洗者を迎えることができたことに、本当に感謝したいと思います。

加えて、毎年、なぜ復活徹夜祭で入信の秘跡が行われるのか、その意味を深く感じてもいます。わたしたちの信仰の土台となるのは、「呼ばれる」ということです。何かの折に話しているように、「教会」と訳された元の言葉〈エクレシア〉は“呼ばれた者の集まり”という意味です。きょうの福音の箇所もそうですが、復活されたイエスは、必ずイエスの方から弟子たちに現れてくださいます。つまり、「わたしたちが」ではなく、「神さまが」、いつも先に呼ばれている。そのこと自体が、まさに「キリストの復活」と言っても過言ではないでしょう。そして、わたしたちは「呼ばれている」ことに気付くときが必ずあります。

わたしは幼児洗礼者で、気が付いたら教会にいて、気が付いたら教会で遊んでおり、さらに、気が付いたら教会で育てられていた…という典型的なボーン・クリスチャンですが、「呼ばれている」ことに気付いたのは大人になってからでした。しかも、それに気付く、はるか前から神さまが、さまざまな出来事の中で、そして、人との出会いを通して、「呼ばれていた」ことに気付かされました。

そして、神さまからの呼びかけは、決して一回限りではありません。わたしたちは生きている限り、生涯、神さまに「呼ばれ」続けている存在です。
きょう受洗される皆さんは、そのような神さまからの呼びかけに、自ら応えられる、言わば「節目」を迎えられました。今年も、神さまから頂く大きな恵みを共に分かち合いながら、「呼ばれた」者同士、これからも、キリストの弟子としての道を共に歩んで参りたいと思います。

受洗者と改宗者（順不同・敬称略）

＜受洗者＞	＜洗礼名＞
大川　由美子	アンナ・マリア
加藤　あつき	シエナのカタリナ
田尻　奈緒美	マリア・テレジア
土屋　公子	マグダレーナ・ソフィア・バラ
早川　真由美	マリア・アーデルハイト
矢作　由希	ガブリエル
羽石　三輪子	マルガリタ・マリア・アラコク
黒　　アキラ	ベルナデッタ
渡邊　麗	テレサ
清水　美枝子	ヨハンナ・フランシスカ
清水　里瑛奈	ヴェロニカ
北見　由美子	エリザベート
北見　亜須香	マリア・テレジア
稲見　怜花	テレサ
渡邊　智美	カタリナ
西村　和人	ロレンツォ
西村　聡子	ソフィア
神保　舞	マリア・フランシスカ
二見　由美子	マリア・グラチア

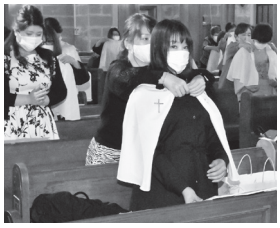
Hannah Shoemaker（改宗）

新受洗者の声

・本当にうれしくて涙が出そうです。受洗できることをずっと心から祈っていたので、きょうの日を迎えられたことに感謝しています。
・神聖な、すがすがしい気持ちでいっぱいです。
・胸がいっぱいです。これからはカトリック信者に恥じない生き方をしたいです。
・教会の皆さまのおかげで洗礼を受けることができましたので、心から感謝いたします。これからは教会に恩返しができるように、また、神さまのみこころが守れるような生き方をしていこうと思います。

聖水をかけていただく

洗礼


白衣を着せていただく

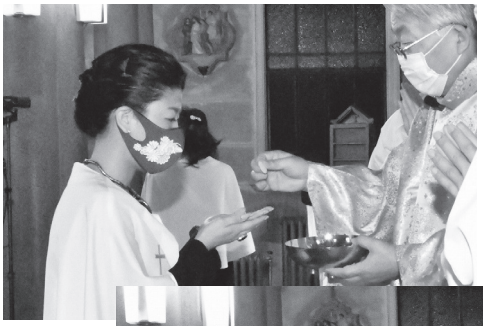
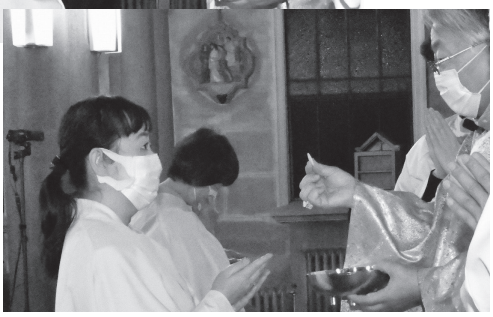
聖なる光を持って

改宗の祭儀

按手

堅信

受洗者代表による
共同祈願



初聖体

おめでとうございます

復活の主日　４月４日（日）11時30分ミサ

ラファエル梅村昌弘司教説教（要旨）

退堂される司教

緊急事態宣言下での昨年の聖なる３日間の典礼はすべて「会衆不在」をもってでありました。今年は緊急事態宣言が解除され、厳しい人数制限はあるものの信徒の皆さんとご一緒に復活祭を祝うことができ大変うれしく思います。昨晩、復活徹夜祭で入信の秘跡を受けられた皆さん、おめでとうございます。

新型コロナウイルス感染拡大の防止策として相変わらず「ソーシャル・ディスタンスを堅持してください」と呼びかけられています。一方で、さらに徹底して兎にも角にも「自宅に居てください」という呼びかけもあります。感染防止の最も効果ある手段は「人と人とが接しない」ということです。「隔離」が物理的な次元だけに留まっているならば、いざ知らず、心の問題にも及ぶと残念です。漢字一文字でその年を表わす恒例の行事が昨年も清水寺で開催され、「密」の字が披露されていました。今年の３月11日は未曾有の大災害と言われた東日本大震災から、ちょうど10年目を迎えました。震災の年の暮れには「絆」の文字が披露されたのを覚えています。どれも「ないものねだり」の字です。以前のような人との「絆」がほしい、以前のような人との「密」な関係がほしいというように人々の願望が漢字一

文字で表現されています。自分のいのちを含め、互いのいのちを大切にするためには互いの絆を深めることが必要だ、互いの密接な関係を保つことが必要だということに気付かされたのです。特に人間関係の希薄さが指摘されるようになって久しい日本の社会にあっては、なおさらのことだと思います。いつしか「無縁社会」、「孤族の国」とも呼ばれるような社会状況の中で、一時、高齢者の孤独死が社会問題となっていましたが、それがまた更に「孤立死」として世間を騒がせるようになりました。年間3万人を超えていた自死も、つまるところ孤独死、孤立死のひとつでした。その自死ですが、ここに来て若年層において著しく増加していることが報道されています。15歳から34歳までの死因の１位が自殺なのは先進国で日本だけだそうです（厚生労働省『自殺対策白書』）。それがコロナ禍にあって一気に増えている。そのうえ年齢層も更に下がり、大学生や中高生だけでなく小学生高学年までという憂うべき事態です。

キリストは救い主として自らの受難、十字架上の死、復活をとおして、神との絆、人と人との絆を取り戻してくださいました。イエスは最後の晩餐の時、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である」とおっしゃいました。その時、弟子たちにはその意味するところが分かりませんでしたが、イエスの受難、十字架上の死、復活をとおして、すなわち、主の過越をとおして真にその意味を理解しました。イエスは新しい契約をもって神と人、そして人と人とを結んでくださったのです。

復活されたイエスはマグダラのマリアに対し「わたしの兄弟たちのところに行って、こう言いなさい」とお命じになりました。わたしたちはイエスの十字架によって兄弟姉妹とされたのです。主の祈りをもって「天におられるわたしたちの父よ」と唱える神の家族なのです。わたしたちキリスト者は、地縁や血縁によらない絆で結ばれた、キリストを長子とする神の家族です。

イエス・キリストの復活のいのちを生きるキリスト者の信仰生活にとって、この絆は大切です。神との絆、そしてキリスト者同士の絆。この二つの絆がなければ、主の十字架を人々に告げ知らせることはできません。十字架の縦木は神との、十字架の横木は人々とのつながりを示していると言われる。言葉を代えて言うならば、神への愛と人々への愛です。だからこそ、わたしたちの使命である福音宣教のためには、この二つの絆は欠かせないのです。

神の民の一員として、神の家族の一員として、福音宣教の使命を果たすようにと召されたのが、わたしたちキリスト者です。そういう意味で、わたしたちの召命は個人的なものではなく共同体的なものだと言えます。わたしたちは神の民としてキリストが十字架上で示された神の愛をこれからも多くの人々に告げ知らせ、一人でも多くの人が神の家族の一員となることができるように努めていきたいと思います。

李 淨雨神父様　お元気で

復活の主日ミサの中で離任の挨拶をされる李 淨雨師

山手教会で協力司祭をされていた師は、４月５日付で横須賀大津教会の主任司祭となられました。李淨雨神父様、ありがとうございました。

（編集部　撮影・田中麻子　土方芳人
文・土方芳人）

ご挨拶　ルドヴィコ茨木　西村英樹

山手教会の皆さま、いつもお世話になっております。去る３月20日、出身教会であるカトリック鷺沼教会にて司祭叙階のお恵みに与り、この度、当教会の助任として赴任して参りました。とはいえ、昨年は助祭として、こちらで司牧実習をさせていただきました。昨年の実習では、２度の緊急事態宣言

が出され、通常より実習開始も遅れ、また、終了も早まってしまうことになってしまいました。教会活動も大幅に制限される中、助祭として、あまり山手教会の皆さまのお力になれていなかったことは、正直､口惜しいことでありました。この度､司祭となって山手教会共同体の皆さまと交わり、また、神の国のため、福音宣教のために共に働けることは、望外の喜びであり、また神の計らいを感じています。

コロナ禍にあって与る叙階式は、特別な思いを感じました。本来ならば、お世話になった方々をたくさんお招きして、この喜びを分かち合っていただきたいところでしたが、それも叶わず残念ではあります。しかし、世にあっては、多くの人々が苦しむ中での叙階式であることに目を向けると、「苦しみを共にする喜び」であると理解し、これからの働きに対して身の引き締まる思いです。

すべての事、特に与えられた恵みと力、経験や能力を神に感謝して、足りないところ弱いところは祈り求め、多くの人に福音の喜びと神の愛を伝えることができるよう、いつも喜んでいる司祭になれるように心がけていきたいと思います。神が慈しみ深いように、愛のある眼差しで人を見、人を変え、その人を救う「力ある神の御言葉」をもって人に語り、喜んで奉仕する姿を通して福音宣教することができますように。これからも、小さなわたくしのためにお祈りいただければ幸いです。「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」（テサロニケの信徒への手紙Ⅰ・５章16－18節）

ようこそ　図書室へ

司祭・信徒館２階の菊の部屋には600冊ほどの本があります。一般書もありますが、ほとんどがキリスト教の本で神学から教会史、聖人伝、児童書・絵本、他教会の記念誌（閲覧のみ）、最新版はありませんがカトリック新聞も保存しています。ぜひ図書室にお立ち寄りください。以前は「山手文庫」と称して数名の図書係が管理していたそうですが、さまざまな理由から管理者不在の状態になっていました。そこで2018年の秋から図書館司書の資格を持つ三宅敬子さんと私の二人で本の管理をしています。現在の主な作業は請求番号の整理です。請求番号とは、NDC（日本十進分類法：Nippon Decimal Classification）に基づく分類で、現在の分類の正否を確認し、背表紙にそのラベルを貼り、これに基づいたデータ化作業もしています。将来的に書架の本をタイトルや著者で探せるようにする予定です。もう一つ重要な作業として本の状態を確認し、必要な場合は修理をしています。中には古書級の本もあるので、扱いには注意が必要です。古書までいかなくても、ほとんどの本が古く、開いてみればシミや線が引いてあるものも見られ、その本なりの表情があって親しまれたことがうかがえます。一方で誰も手にしていないと思われる新古書もあり、こうした蔵書を紹介するお知らせ「やまて図書」を月に1度発行し、皆さんの参考に供するため図書室と司祭・信徒館に設置しています。その年、その月の特記事項に合わせた本、教会暦に沿う本、黙想のヒントになるような本を選んでいます。

コロナ禍により奉仕活動に制限があるため、今は種々の作業を中断せざるを得ず、「やまて図書」もお休みした月がありましたが、状況を見ながら活動を再開していければと思います。

ところで、寄贈したいという問い合わせを時折受けますが、今は受け入れ態勢が整っていません。現在の蔵書をある程度整理した後に、お受けするつもりです。図書室の本は皆さまの財産だと思い、大事に管理していきたいと思っています。

（図書係　竹之内弘美）

2021年４月度教会委員会議事録

日時：2021年４月11日（日）13：00～15：00
場所：教会ホール

議事内容（議事進行：太田委員長）
1　主な審議確認検討事案　※順不同
(1)　西村英樹助任司祭着任挨拶
(2)　合葬墓について

【墓地委員会からの意見】
・合葬墓のモニュメントは、司教様の紋章のイメージも含まれ好評であり、反対意見はなかった。
・「空間工場」に相談したところ、ステンレス素材での作成は、技術的に成熟しておらず、鉄で作成することで費用を600万円から480万円に抑えられるとのこと。
・原資については、墓地利用者からの利用料で賄える。
・４月16日の墓地委員会で最終決定したい。
【教会委員会からの意見と決定事項】
・墓地に何も飾りが無いのは寂しいのでは。
・教会委員会としては、墓地委員会で検討した結果で進めていただく。
⑶　ミサと教会活動について
【聖週間の報告と意見】
・今年の受洗者は、19人（うち１人は静岡の方）、改宗者１人（外国籍）であった。
・聖週間、復活の主日については、部分的に聖歌隊の歌を入れた。
・会衆が歌うということについては、現時点においては好ましくないと考える。
・今後、聖歌隊は最大４人程度でミサを行ってはどうかと考える。
・聖歌隊のメンバーとしては歌いたい。また、ミサには歌があったほうがいいという意見もある。
【決定事項】
・聖歌隊には、無理せず最大４人程度で活動してもらう。
・４月25日、５月23日は、４人で歌ってもらう。
・会衆は、歌わず小声で口ずさむ程度にしてもらう。
２　今後の活動
【講座開始案内について】
・入門講座を５月から開始したい。
・山本先生のクラスは（日曜開催のため）大人数なので、感染防止のガイドラインを決めたほうがよいのでは。
・入門講座申込書に名前を書き１クラスの定員を12人程度にしてはどうか。
・人数に応じて教会ホールを使用してはどうか。
・各種講座をぜひ再開してほしい。
【決定事項】
・入門講座卒業生については、山本先生主催の講座ではなくフォローアップ講座に参加していただく。
・昨年からの新型コロナ対策のため入門講座の回数が十分でなかったので、フォローアップ講座を西村師、水上神学生にお願いしたい。
・山本先生の体力なども考慮して、日曜日の入門講座について他の方への依頼も検討する。
・講座は、５月からそれぞれ再開する。
＜入門講座再開予定日＞
・木下庸子（第３土曜）（５月15日（土））
・元橋久美子（第１、３木曜）（５月20日（木））
・山本幸子（第１、３日曜）（５月９日（日））
＜主日の聖書＞　鈴木真師（５月19日（水））
＜聖書の集い＞　山本幸子（第４木曜）（５月27日（木））司祭・信徒館１階
＜聖書の分かち合い＞　（５月９日（日））図書室
【ロザリオ会主催ミサ】
・第１金曜日ロザリオ会主催のミサについては、５月７日（金）に行う。
・ロザリオ会例会についてもミサ後に聖堂で行う。
【水上神学生の助祭叙階についての決定事項】
・山手教会出身なので、教会からのお祝いを差し上げる。
・ロザリオ会、ヨゼフ会からは合同で差し上げる。
・神学院からは、３人が参加する。
・来週のお知らせにて叙階式について記載する。
３　主任司祭から
・西村英樹助祭司祭叙階　３月20日（土・祝）13：00～鷺沼教会にて：鈴木真師参加。
・４月18日（日）、司教館とホールを使って、教区の「高校生の集い」を予定。
・５月15日（土）、午後、学連の集まりでホールを使用予定。
・３月13日（土）に先日参加できなかった５人の入信志願式を行う。
４　次回教会委員会
５月２日（日）13時00分～15時30分終了予定
（総務担当　宮 裕一）

2021年５月・６月主日ミサの聖歌および奉仕者予定表

	主　日	聖歌 ミサ曲	入祭	奉納	聖体拝領	閉祭	聖歌隊	時　間	奉仕者 オルガン	先　唱	聖書朗読		ミサ割当
５月16日	主の昇天							前日pm5：00	藤　沼	山本(康)	中島(晶)	志　村	夜ミサB
								７：30	渡　邊	末　澤	石川(喜)	中村(桂)	朝ミサB
								11：30	手　塚	村田(義)	中　川	岩　隈	昼ミサB
23日	聖霊降臨の主日							前日pm5：00	忠　海	田中(麻)	佐藤(篤)	阿　部	夜ミサA
								７：30	太　田	亀　井	仁井田	藤　本	朝ミサA
								11：30	米　沢	藤原(ま)	川　田	鈴木(理)	昼ミサA
30日	三位一体の主日							前日pm5：00	村　松	吉　川	遠　藤	櫻　井	夜ミサB
								７：30	中　川	時　久	花　田	石　井	朝ミサB
								11：30	米　沢	曽　禰	小　松	荻　原	昼ミサB
６月６日	キリストの聖体							前日pm5：00	村　松	竹之内	新井田	島　田	夜ミサA
								７：30	手　塚	石　川	鈴木(幸)	鈴木(由)	朝ミサA
								11：30	中　川	佐藤(篤)	鈴木(理)	大　澤	昼ミサA
13日	年間第11主日							前日pm5：00	藤　沼	斎　藤	鈴木(明)	福　田	夜ミサB
								７：30	中　川	二　宮	東海林	時　久	朝ミサB
								11：30	米　沢	遠　藤	石　田	中　野	昼ミサB
20日	年間第12主日							前日pm5：00	村　松	山本(康)	中　島	志　村	夜ミサA
								７：30	渡　邊	末　澤	石川(喜)	中村(桂)	朝ミサA
								11：30	手　塚	村田(義)	中　川	岩　隈	昼ミサA
27日	年間第13主日							前日pm5：00	忠　海	田中(麻)	佐藤(篤)	阿　部	夜ミサB
								７：30	太　田	亀　井	仁井田	藤　本	朝ミサB
								11：30	米　沢	藤原(ま)	川　田	鈴木(理)	昼ミサB

（注）　・当分の間、ミサ中の聖歌は 歌われません。
　　・「子どもとともに、ささげるミサ」もありません。

編　集　後　記

わたしは日本アルプス登山の他に、ヒマラヤのエベレスト街道、ヨーロッパ･アルプス、ニュージーランドのサザン・アルプスをトレッキングしています。ヨーロッパ・アルプスは、スイス・アルプスとフランス・アルプスの高山植物が咲き乱れる夏の山々に、それぞれ２回行きました。ヨーロッパ・アルプスの美しさは「すばらしい」の一言ですが、一度だけマッターホルン近くの山小屋へ行ったことがあります。旅行会社のトレッキング・ツアーに参加し、まる一日の自由行動があったので、単独でトレッキングを楽しんでいたときのことです。トレッキング・コースから見えているガレ場（沢や岩壁が崩れ落ちた場所）上部の雪渓近くに丸太造りの、かわいらしい山小屋があるのに気が付きました。そこで、コースから外れてガレ場を登り山小屋に行くと広いテラスがあり、多くの登山者が食事などをして、くつろいでいましたが、木で造った長さ１ｍくらいの船形の箱に野菜サラダがぎっしり盛られていたのには驚きました。テラスからの景色は最高で、正面には雪をまとったマッターホルンが紺碧の空に優美な姿でそびえており、眼下には茶色の山肌や緑色の木々の中に氷河が造った大小さまざまな湖がエメラルドグリーンに光り輝いていました。この場所で、おいしいコーヒーをいただきながら眺望を満喫したのち、トレッキング･コースに戻りました。　（土方芳人）

☆表紙のカット（山手教会）は、濱尾文郎枢機卿様の「えはがき」です。